

平成 25 年 12 月 12 日

業務システムのサーバー統合基盤の導入について

足利銀行（頭取 藤澤 智）では、システム経費の削減および管理一元化による安定稼働の向上を目的として、行内に分散している業務システムのサーバーを統合するための基盤を当行電算センターに構築いたします。

当行は、この新しいサーバー統合基盤の活用を推進することで、システム経費を削減するとともに、効率的かつ安定的な業務運営につとめてまいります。

1. 内容

当行では、サーバーを利用している業務システムが 110 ありますが、その約 8 割を対象としてサーバー統合基盤に移行し、サーバー台数を 113 台から 22 台に削減する計画です。

基盤構築は、富士通株式会社が担当して今年 7 月に着手し、平成 26 年 1 月に本番稼働する予定です。稼働後は、各業務システムの更改時期などを考慮して 5 年計画で順次移行します。

2. 目的・効果

- (1) サーバー台数が大幅に減少することで、業務システムのハードウェア関連コスト(導入・構築、保守費用など)を約 4 割～5 割削減できると見込んでおり、CO2 排出量の削減にもつながります。
- (2) サーバー統合基盤はすべての機器を二重化していることから、機器故障が発生した場合でも自動的に予備機器に切り替わることで、業務を継続して運営できます。
- (3) 運用・監視業務の一部を富士通運用センターに委託し、24 時間 365 日対応可能な体制を構築することで、復旧対応体制の強化を図ります。
- (4) サーバー統合基盤には、富士通の仮想化・クラウド基盤「Cloud Ready Blocks」を導入し、ブレードサーバー上に仮想化環境ソフトウェア (VMware) を採用して統合基盤を実現します。

以 上

【参考】

本件に関する富士通株式会社ホームページ

<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2013/12/12-1.html>